

大学生活 夢膨らませ 仙台などで入学式

東北大をはじめ仙台市などにある複数の大学が3日、市内や学内で入学式を行った。花冷えの中、宮城県内外から集まった新入生が緊張した面持ちで式典に臨み、学都仙台で迎える新生活に希望を膨らませた。

世界挑戦 誇り持って

東北大の入学式は、仙台市太白区のカメイアリーナ仙台で行われた。10学部と大学院の計5057人が、晴れやかな思いで新たな一歩を踏み出した。

富永悌二総長は祝辞で、昨年11月に国の「国際卓越研究大学」第1号に認定されたことに触れ、「世界に挑戦する東北大の一員であることに誇りを持ってほしい」と激励。「秀でたアイデアを基に、リーダーシップを発揮する人となつて成長することを期待する」と述べた。

学部生代表の農学部佐藤空さん(18)は「仙台市出身は農業の課題と可能性を深く学び、持続可能な食料生産システムを開発したい」と抱負を語った。大学院生代表の医工学研究科の藤堂桜喜さん(22)は「それぞれの専門分野で成果を積み重ねながら、学問を深め



東北大の入学式で学生歌を斉唱する新入生
＝3日、仙台市太白区のカメイアリーナ仙台

東北大 卓越大に認定後初

「山形市出身」は「将来の選択肢を広げられるよう勉強し、サークル活動など新たなことにも挑戦したい」と話した。

人格陶冶 学業に専心

東北医科薬科大は仙台市青葉区の電力ホールで入学式を行った。医学部の10期生100人をはじめ薬学部大学院を合わせた新入生計448人が学生生活のスタートを切った。



入学式に臨む東北医科薬科大の新入生
＝3日、仙台市青葉区の電力ホール

大野勲学長は式辞で、東北各地で進む少子高齢化に触れ「医療ニーズも変化している。これからの医師、薬剤師には専門的な知識だけでなく、患者を地域の生活者として迎える心構えが必要だ」と強調した。新入生を代表して薬学部の今野陽斗さん(18)は宮城県涌谷町で「人格の陶冶に努め学業に専心します」と宣誓書を読み上げた。薬学部に入学生した阿部陽香さん(18)は宮城県東松島市で「は式典後、「患者に寄り添った薬剤師になれるよう、勉強を頑張りたい」と意気込んだ。

同大は本年度、薬学部「地域支援制度」を新設。卒業後に薬剤師として宮城、秋田両県の指定医療機関で一定期間勤務した場合、在学中に支給される奨学金の返済を免除する。新入生6人が同制度を活用した。

このほか、宮城を除く東北5県の指定医療機関で医師として勤務することを条件に、自治体が奨学金を貸与する医学部の「東北地域定着枠」として20人が入学した。

考え、行動する力養う

東北福祉大(仙台市青葉区)には4学部と大学院の計1578人が入学。国見キャンパスで式典が行われた。

同大を運営する学校法人梅檀学園は、今年で創立150年を迎えた。千葉公慈学長は「長い歴史が皆さんを後押しする。不安を自信に変え、学業や部活動に励んでほしい」と激励した。

新入生代表として、昨夏に全国高校野球選手権大会に初出場した聖和学園(若林区)で主将を務めた、総合福祉学部三浦広大さん(18)が宣誓。「社会のために自分ができることを考え、行動する力を養う」と力を込めた。三浦さんは硬式野球部への入部を予定している。

本年度設置された共生まちづくり学部に入った川口璃和さん(18)は山形市出身で「まわりの魅力を観光に活用する方法を学びたい」と話した。



新入生代表として宣誓した三浦さん(18)は3日、仙台市青葉区の東北福祉大

東北福祉大 運営法人 創立150年

デフ五輪 出場目指す

東北唯一の体育系大学、仙台大(宮城県柴田町)の陸上部に、聴覚障害のある短距離選手3人が入部し、宮城県聴覚支援学校出は



3日の入学式で「陸上と勉強、どちらも頑張る」と語った。昨年の日本デフユース選手権で女子100m、200mの2冠を達成した生井沢彩瑛さん(18)は茨城・鹿島学園高出身で、菅野空さん(18)は福島県聴覚支援学校出身。同部に所属する聴覚障害のある選手は計6人になった。

選手は多くが今年11月に東京で開催される聴覚障害のあるアスリートの国際大会「デフリンピック」への出場を目指す。陸上部部長の名取英二さん(66)は「健聴の選手とも競い合って競技を高めてほしい」と期待し「障害があっても世界に挑戦していることを、たくさんの人に知ってもらいたい」と語った。

仙台大入学式に出席した、全から亀さん、生井沢さん、名取部長、菅野さん(18)は3日、宮城県柴田町の仙台大

仙台大 陸上部に聴覚障害者